

西東京市 図書館だより

平成28年(2016年) 1月15日

第60号

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行:西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



謎の場所
向台小学校5年

調べものにはこの6冊!

図書館には頼りになる事典・辞書があります

何か調べものをしたくなったとき、事典や辞書をお使いになることがあるかと思いますが。図書館でそれらを揃えているのがレファレンスコーナーです。日外アソシエーツという会社が、「図書館員が選んだレファレンスツール2015」というアンケートを公共、大学等の図書館員に行い、11月にその結果発表がありました。アンケートは図書館員が常日頃頼りにしているレファレンス資料を再確認する結果となりました。

『国史大辞典』(吉川弘文館、全17冊)、『角川日本地名大辞典』(角川書店、全51冊)、『日本国語大辞典』(小学館、全14冊)、『理科年表』(丸善、毎年1冊)、『大漢和辞典』(大修館書店、全14冊)、『世界大百科事典』(平凡社、全31冊)の6点がベスト5でした。

いずれも、その分野の総本家と言ってもよい内容の濃さとボリュームを持ち、職員研修でも毎回必ず、習熟するように指示する資料です。『角川日本地名大辞典』(中央・柳沢図書館所蔵)を除いたすべてを市内全図書館に所蔵しています。調べものの第一歩には、これらの資料が力を発揮しています。ことばや事柄、漢字を調べるうえで、もはやインターネットの時代と言うのは早計です。インターネット情報は直接そのことばにアクセスできるものの、前後を見開き、全体を概観するなど、点ではなく、広がりを持った面として活用するには紙媒体でないと思ふように展開できません。これら6点は、西東京市図書館レファレンス資料全体の一握りです。これらからもお役に立てる資料を、収集し揃えてまいります。



★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館(☎421-4545)へお問い合わせを

図書館だより版

にんにん西東京

第11回「西東京市」ゆかりの人

田無村名主・下田半兵衛



江戸時代前半期まで、田無村の名

主役は数人の組頭が年番で務めていました。享保16年(1731)、初めて下田家が名主役を担い、その後、江戸時代後半期には下田家で家督を継ぐものが代々「半兵衛」を襲名し、名主役を務めるようになりました。今回は、歴代の名主、半兵衛さんを紹介し

に充てました。

天保9年(1838)、貯穀を詰め戻すため、自費で五百石入りの穀櫃を造り、主なお百姓39人と百両を出し、それを貸し付けた利子で稗を買

下田半兵衛富永(蘇仙)
安永8年(1779)生、嘉永3年(1850)没、在任期間・文化初年(1804)頃、天保末年(1843)頃。次男として生まれますが、長男が早世したため跡継ぎとなり、下田半兵衛富永を名乗り名主となります。文化5年(1808)、玉川上水分水、田無用水の水路を自宅に引いて水車を建て、製粉脱穀を営みました。質屋、米雑穀売買等、農商兼業の経営も行

代宮司の父)に田無での開業を頼み医療活動へ支援も行いました。

文政9年(1826)、救済用穀物を貯える穀櫃を造り、稗五百石(75ト)を貯え、天保3、7年(1832、1836)の大飢饉で全てを救済

幕府領として代官に、御鷹場として尾張藩の支配を受け、警察制度強化のため関東取締出役の支配も受けた田無村は近隣41力村をまとめる大組合寄場村となり、半兵衛は名主・鷹場案内役・寄場大総代を担うこととなります。

嘉永2年(1849)、子孫への教訓「碑陰教誨」を書き残し、翌年に亡くなり、自らが再建した西光寺(現在の総持寺)に葬られました。

下田半兵衛富宅(富宅の記述もあり)(半千)
享和元年(1801)生、万延元年(1860)没、在任期間・天保末年(1843)頃、万延元年(1860)。武州上新井村(埼玉県)森田清左衛門



下田半兵衛富宅の木像

の次男として生まれ、富永の養子となり半兵衛富宅となります。

嘉永2年(1849)、代官大熊善太郎の命により玉川上水小金井堤桜並木植樹に尽力しました。この事情を記した「桜樹接種記」の碑は今も玉川上水堤関野橋西に残されています。嘉永7年(1854)、養老畑を定め、持畑1町歩(約1万坪)を村人に提供し収穫物で得たお金を村の70歳以上の老人に贈りました。嘉永6年(1853)、ペリー提督率いる米艦隊来航に際し、幕府へ二百両を献金する等の功績により永代苗字使用を許されました。息子富潤により作られた富宅の木像は市指定文化財第9号に指定されています。(写真)

下田半兵衛富潤(範三)
文政2年(1819)生、明治17年

(1884)没、在任期間・万延元年(1860)～慶応2年(1866)。武州上新井村(埼玉県)、鹿嶋市右衛門の次男として生まれ、富宅の養子となり半兵衛富潤となります。輸出用の蚕種紙(蚕の卵を産みつけた紙)取引での活躍があったためか、慶応2年(1866)、八王子の生糸改所の肝いりとなります。同年、武州上名栗村(埼玉県)から起きた武州世直し一揆が柳窪村(東久留米市)を打ち壊した時、田無農兵隊と共に鎮圧しました。慶応4年(1868)、戊辰の戦で官軍と上野で戦った彰義隊の別隊、振武軍が西光寺に陣を張った時、隊長渋谷成一郎の要求で軍資金を提供しました。明治元年(1868)、新政府の官僚に抜擢されます。明治3年(1870)、社会制度に反対する村人を品川県(当時)知事が弾圧する御門訴事件が起こりました。職務に関する史料「公用分例略記」の編集を始めますが、完成させることなく、大蔵省退職後に亡くなりました。

下田半兵衛富栄

天保13年(1842)生、明治25年(1892)没。在任期間・慶応2年(1866)～。富潤の実子として父を助け、田無村字鎮守の山林開発、長州征伐資金の募金、農兵隊訓練等を行いました。また、「公用分例略記」の編集、郵便業務開始等の実績を残しました。

西東京市図書館開館40周年記念事業 講演会、人形劇などを開催 まだまだ続きます！

まだまだ続きます！



第1回縁講演会で、ワールドカップについて語る
トップレフリーインストラクターの岡田正義氏

西東京市の最初の図書館、中央図書館は1975(昭和50)年8月23日に開館し、今年で開館四十年となりました。これを記念し、西東京市文化人冊子の作成と、この冊子に掲載する文化人を招いての縁(ゆかり)講演会をメインに西東京市図書館開館40周年記念事業を実施しています。平成27年中に実施した主な事業と今後の予定をご案内します。

「魔法つかいの弟子」 人形劇

「読書ばなれ」と昨今言われていますが、本当に本は読まれなくなつたのか。11月7日、『本が売れない』というけれど』など著書があり、出版業界に詳しい永江朗氏に、「読書ばなれ」といわれるものの実態についてお話いただきました。参加された皆さんの本や図書館に関する関心も高く、講演の後の質疑応答は長時間に及びました。

「読書ばなれ」というけれど
読者と書店と図書館と
永江朗氏

縁(ゆかり)講演会 第一回
「夢に向かって・ワールドカップと私」 岡田正義氏
全4回予定の縁(ゆかり)講演会の第一回は、11月28日、講師に保谷中学校サッカー部出身で、ワールドカップで主審を務めた岡田正義氏を迎え、ご本人とサッカーの関わりや、ワールドカップの舞台裏など興味深いお話を伺いました。
第一回文化講演会

40周年記念事業 今後の予定 ◆西東京市文化人冊子の作成 西東京市にゆかりのある文化人の

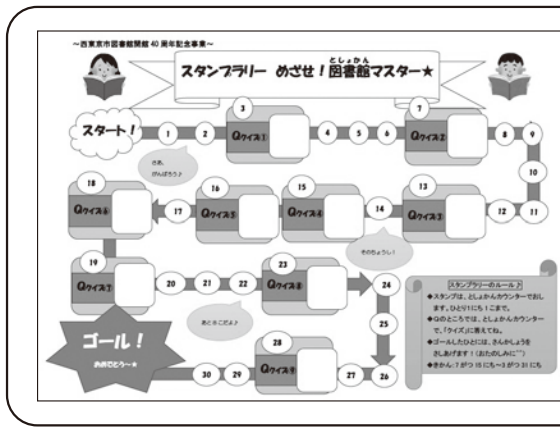


「魔法使いの弟子」の楽しい舞台

子どもたちにお話の楽しさ、おもしろさを体験してもらうため人形劇公演を行いました。人形劇に先立ち、中央図書館ができる前にそこにあった田無第一中学校の写真パネルを紹介、当時の校舎とグラウンドの様子を懐かしみました。人形劇は、ディズニー映画「ファンタジア」の題材となつた「魔法つかいの弟子」で、その楽しいお話に子どもたちは大喜びでした。



読書ばなれについて語る永江朗氏



これがスタンプカードだ！

40周年記念 スタンプラリー めざせ！図書館マスター★

3月31日まで
やっています！

- ◆参加できるのは？ 小学生までの子ども
- ◆やりかたは？ ①カウンターで「スタンプカード」をもらう ②図書館にきたら、カウンターで「スタンプ」をおす(ひとり1日一回) ③クイズに答えながら30個スタンプが集まったらゴール!!「お楽しみ」があります。

日ごろ、ひばりが丘図書館には、大変お世話になっております。

私が当図書館を頻繁に利用するようになったのは、平成二四年秋に職を退いてからですが、それまでも、休日などによく出入りしておりました。職員の皆さんも気持ちよく応接してくださり、蔵書も質量共に不足なく、また日々、目を通したい新聞・雑誌類も概ね備えており、十分に満足しております。

館内も、閲覧に供するデスク・椅子も利便性を考慮して居心地良く配置されていると思っております。贅沢をいえば、ゴミ箱があれば有り難いのですが、最近では公共施設に設置されない所が多く、甘受しているところでは、私は今も非常勤の公務員として、週二日程度、霞が関の在職したところの官署に出掛け、その際には、区立日比谷図書文化館にも立ち寄りますが、蔵書等含め、そんなに当図書館は遜色ないものと感じています。日比谷には、地階等にカフェもあり、コーヒー休憩を

楽しむことができますが、公園その他周辺環境も異なり、比較することは適当ではないでしょう。

さて、私は当図書館においては、小説その他の文学書のほか、論語等の哲学関係の書籍、さらに、中世・近世(江戸時代)の歴史物にも興味がありまして、多岐に及びいささか乱読気味に書籍を利用させていただきます。

利用者エッセイ

わたしと図書館

正木 常博



ていただきますが、当ひばりが丘図書館には備え付けられていない書も、西東京市の管内図書館に手配していただき、ほぼ充足して利用させていただけます。

以上のように、退職後の人生を、図書館を利用させていただき、より豊かな趣味の世界

を広げさせていただいておりますが、書籍利用以外にも、たとえば、古典を学ぶ機会、古文書を学ぶような機会が、図書館と直接・間接的な形で生まれるなら、さらに私にとつて嬉しいことですが、無理な要望かもしれないですね。いずれにせよ、日々ありがとうございます。

方々の業績や市との関わりについて、一冊にまとめて紹介する冊子を作成しています。3月に発行を予定しています。

◆縁(ゆかり)講演会 申込不要

西東京市文化人冊子と連動し、冊子で紹介される文化人を招いて講演していただきます。

第2回 中村彰彦氏(作家・文芸評論家)2月7日(日) 午後2時〜4時
コール田無 多目的ホール 「武田信玄の姫君二人と保科正之」『疾風に折れぬ花あり』より〜

中村彰彦氏は『一つの山河』で直木賞を、『落花は枝に還らずとも』で新田次郎文学賞を受賞。歴史小説、時代小説を次々と執筆されています。

第3回 海老澤敏氏(モーツァルト研究所所長・尚美学園大学院名譽教授・国立音楽大学名譽教授)3月6日(日) 午前10時〜11時30分
こもれびホール 小ホール「日本にやってくる来たモーツァルト〜日本のモーツァルト百面相を語る〜」

海老澤敏氏は、モーツァルト研究の世界的権威であり、2007年には、西洋音楽の学問的研究者として初めて「文化功労者」に顕彰されました。

第4回 小出菟氏(切り絵作家)×広瀬舟雲氏(書家) 3月27日(日) 午後2時〜4時 講演会 田無公民館
3階 視聴覚室

冊子「西東京市図書館開館40周年記念 縁(ゆかり)」に表紙絵と題字

をご提供いただいた小出菟氏と広瀬舟雲氏の講演会と作品展を行います。

◆児童サービス講演会

「作者が語る絵本の世界」
もつと自由に楽しんで!

講師 もとしたいづみ氏
1月23日(土) 午後2時〜4時
柳沢公民館視聴覚室

西東京市在住の人気絵本作家もとしたいづみ氏に執筆活動のことや絵本の読み聞かせについて伺います。

◆文化講演会 講師 小西和信氏(武蔵野大学教授) 3月26日(土)
午後2時〜4時 田無公民館

3階 視聴覚室 演題未定

図書館情報学を専門とし、西東京市図書館協議会の会長でもある小西和信氏に、今、図書館が求められているものが何であるのかを、お話いただく予定です。

40周年事業は3月31日まで、まだまだ続きます。皆さんもこの機会にぜひご参加ください。本を読む楽しみがまた一段と膨らむことと思いません。詳しくは、市報、図書館ホームページ、図書館内設置のチラシ等をご覧ください。

編集後記

新しい年の始まりは、何か始めたくなる時でもあるようです。図書館の本や雑誌・CDから、そして、3月まで続く講演会が、新たな興味との出会いになればと思います。